

デイリー・ジーザス・ニュース #327

金曜日…苦惱と贖罪の日

イエスは園の墓に埋葬される

イエスの死が公式に認定される

ヨハネ19.31-37

=====

31さて、その日は準備の日で、翌日は特別な安息日でした。ユダヤ人の指導者たちは、安息日に十字架に遺体を残しておくことを望まなかつたので、ピラトに、足を折って遺体を取り降ろすように頼みました。

32 そこで兵士たちが来て、イエスと一緒に十字架につけられた最初の男の足を折り、それからもう一人の男の足をも折つた。 33 しかし、彼らがイエスのところに来ると、イエスは既に死んでいたので、足を折ることはしなかつた。 34 すると、兵士の一人が槍でイエスのわきを刺した。すると、たちまち血と水が流れ出た。

35 それを見た人は、いつまでも真実な証言をしています。彼は自分が真実を語っていることを知つており、あなたがたも信じるように証言しているのです。

36 これらの事が起こつたのは、聖書の言葉が成就するためである。

」彼の骨の一つも折られないであろう」（民数記9章12節）そして、別の聖書にはこうあります。」彼らは自分たちが突き刺した者を見るであろう。」（ゼカリヤ書12章10節）

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク =^M、ルカ =^L、ヨハネ =^J、使徒行伝 =^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します。** 旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

THE DAILY JESUS NEWS

An ATJ Ministries Publication by John Wright

位置	エルサレムの西の城門の外にあるゴルゴタ
タイムライン	4月上旬 (39ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第8段階：受難週
	E. 金曜日：苦悩と贖罪の日
	イエスは園の墓に埋葬される
タイトル：	イエスの死が公式に認定される

今日の朗読は、イエスの埋葬を扱った四つの箇所の最初のものです。この箇所で、イエスはローマの行政当局と使徒ヨハネの靈的権威によって公式に死亡が宣言されました。これは重要な点です。なぜなら、イエスの復活は彼の死を前提としているからです。もしイエスが本当に死んでいなければ、復活も経験していないことになります。福音はイエスの実際の肉体的な死にかかっているのです。

復活を説明する説の一つに、一般的に「氣絶説」と呼ばれるものがあります。この説では、イエスは実際には十字架上で死んだのではなく、「氣絶」した、あるいは気を失ったとされています。

その後、イエスは医療処置も受けず、約70ポンドの粘着性の軟膏を塗られ、両腕を体に密着させた状態で約10メートルの布にしっかりと包まれ、暗闇の中で岩の墓に横たわった。それから約48時間後、イエスは目を覚まし、何とか墓布を脱ぎ捨てる力を取り戻し、石の扉を動かして脱出し、弟子たちに自分が死から蘇ったと信じ込ませた。福音書記者が記した事実に照らし合わせると、これは全く説得力のない、滑稽な説である。私がこのことを述べるのは、イエスが後に真の復活を遂げるためには、真の死がいかに重要であったかを示すためである。

前にも述べたように、十字架刑は脱水症状による窒息（呼吸困難）による極めて緩慢な死でした。ユダヤ教の一日は日没から始まり、その日は安息日として働くことができなかつたため、ユダヤの律法では日没前にイエスの遺体を十字架から降ろして埋葬する必要がありました。しかし、十字架刑が始まってからわずか6時間しか経っていませんでした。通常であれば、死は翌日、あるいはもっと遅くに訪れていたでしょう。そこで、十字架上で犠牲者の足を折ることが解決策となりました。こうすることで、通常は20分以内に死期を早めることができました。なぜでしょうか？

十字架の苦しみの一つは、息をするたびに体を持ち上げなければならないことでした。そのための力は足になりました。十字架に釘付けにされた足で体重を持ち上げるのは耐え難い苦痛でしたが、呼吸したいという本能は抗うには強すぎました。息をするたびに苦痛でした。

犠牲者の脚を折ることで、死期が早まりました。なぜなら、特に十字架上で腕を広げられた状態では、腕の力だけで体を持ち上げることがすぐに不可能になったからです。肉体の衰弱により犠牲者は気を失い、体を持ち上げることができなくなり、体重で肺が圧迫されて呼吸も不可能になりました。そこでユダヤの指導者たちは、安息日に間に合うように死期を早めるため、ピラトに脚を折るよう命じました。

ローマ兵は他の二人の犠牲者の足を折りました。しかし、イエスのもとに着いた時、彼は既に死んでいました。ここでギリシャ語の完了形が使われているのは、イエスが永久に死んだこと、つまり決定的だったことを明確にするためです。これらのローマ兵は処刑人として雇われており、その技術を熟知していました。さらに、処刑命令に従って囚人の命を絶たなかつた場合、兵士たち自身も職務怠慢の罰として十字架につけられることになります。彼らはイエスの死に関して、決して間違ひを犯すつもりはありませんでした。

先ほども述べたように、イエスが十字架上でわずか6時間で亡くなったことは、それ以前に受けた鞭打ちと三度の頭打ちを考えると、全く理にかなっています。十字架に釘付けにされる前から、イエスはすでに重度の脱水症状と大量失血による衰弱に陥っていました。そのような状況下では、より弱い者は決して十字架にたどり着けなかつたでしょう。

イエスが本当に死んだことを確かめるため、兵士たちは槍でイエスの左脇腹を突き刺しました。すると血と水が流れ出ました。これは、イエスが亡くなった際に心臓が破裂したことを示しており、血が流れ出たのです。心臓は心膜に包まれています。心膜は二重の膜で、30～50mlの透明な液体で満たされています。心臓を包むこの液体の袋は、様々な方法で心臓を保護しています。心膜液はイエスの胸の穴から流れ出し、「水」と表現されました。イエスは文字通り、心臓が破裂して亡くなつたようです。

ローマ兵による検死と槍による刺し傷の結果から、ローマ兵はイエスが正式に死亡したと確信し、それを認定しました。これはイエスの死の法的確認でした。

イエスの苦難の間ずっと傍らにいた使徒ヨハネもまた、血と水について証ししました。ヨハネにとって、血と水は靈的かつ象徴的な意味を持っていました。血はイエスの「神の子羊」としての役割を象徴し、その血はすべての罪を清め、新しい契約を確立しました。「水」は聖霊の注ぎを象徴し、「油を注がれた者」（「メシア」の意味）の心から流れ出る聖霊は、イエスを信じるすべての人々へと「生ける水の川」（ヨハネ7:38-39）として流れます。

イエスの心臓から流れ出る血と水は、極めて重要な意味を持っていました。それはイエスの死の事実を証明し、その死の意味も証明しました。イエスは世の罪を負い、碎かれた心で亡くなりました。イエスの死は、その血を通して赦し、新しい契約、そして永遠の命をもたらし、そして御靈（水）を通して内在するイエスの存在という賜物をもたらしたのです。

最後に付け加えておきます。ヨハネが引用した聖書の一節（民数記9章12節）には、過越の子羊を屠る際に骨を折ってはならないという戒めが記されています。ヨハネはこの聖句をイエスに当てはめることで、イエスの死における過越の「神の子羊」というモチーフを改めて強調していました。過越の子羊は刺し貫かれ、焼かれました。使徒パウロが次のように書いたのも不思議ではありません。

「私たちの過越祭であるキリストは、私たちのために犠牲にされました。」（コリント人への手紙第一 5.7B）

応用：

イエスは私たち一人一人のために死を味わってくださいました。それは私たちが永遠に生きられるようにするためにです。イエスの死のあらゆる詳細は聖書に預言されていました。それは、イエスが私たちのために買い取ってくださった永遠の命に、私たちが確固たる確信を持つためです。

イエスの死は私たちの救いを買い取りました。イエスの復活が私たちに救いをもたらしたことを見、私たちはすぐに知るでしょう。